

# ガソリン容器使用時のご注意！

## 誤った使用は大変危険です！

京都府の花火大会で、ガソリン容器の誤った使用により、多数の死傷者を出す火災が発生しました。ガソリンは $-40^{\circ}\text{C}$ でも蒸気を発生する、極めて引火しやすい危険物です。静電気や高温で取り扱う機器等により容易に火災を起こす危険性もあり、可燃性蒸気は空気より重く、床面等に滞留しやすい特性から、取扱いを誤ると大事故に至りますので、取扱いに十分ご注意ください。

### ⚠ 容器へのガソリン注油時の注意

- ガソリンの携行は消防法に適合した金属製容器に限られ、ポリタンク等の容器の使用は禁止されています。
- ガソリンスタンドで、従業員以外がガソリンを容器へ注油することは、消防法により禁止されています。



### ⚠ ガソリン携行・保管時の注意

- 容器からガソリン蒸気が流出しないように、タンクキャップ、エア調整ネジが確実に閉まったかどうか確認して下さい。
- ガソリンの保管が必要な場合は、火の気がなく温度変化の少ない安全な場所に保管して下さい。直射日光が当たる場所や高温になる場所での金属容器の保管は、変形破裂や火災につながり、また、雨や雪に当たる場所や湿気の多い場所での保管は錆などの原因となり、いずれも大変危険です。



### ⚠ 容器からガソリンを注油する場合等の注意

- 発電機等にガソリンを入れる場合は、周囲に火気がないことを確認のうえ、万が一溢れても周囲・人体に危険を及ぼさない安全な場所で必ず発電機等のエンジンを停止してから行って下さい。なお、その際は、必ず消火器を準備してから行って下さい。
- ガソリン容器のキャップを外す場合、細心の注意を払いながら必ずエア調整ネジを緩め、容器内の圧力を調整してから取り外して下さい。キャップを一気に外すと、ガソリンの噴出等による事故が起きる恐れがあり大変危険です。
- 静電気による着火を防止するため、容器を地面に直接置くなどして静電気の蓄積を防止して下さい。

